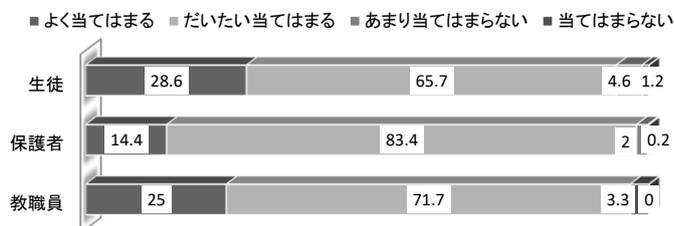


令和5年度 学校評価アンケート結果及び分析と対策について

宮城県富谷高等学校 校長 田淵 龍二

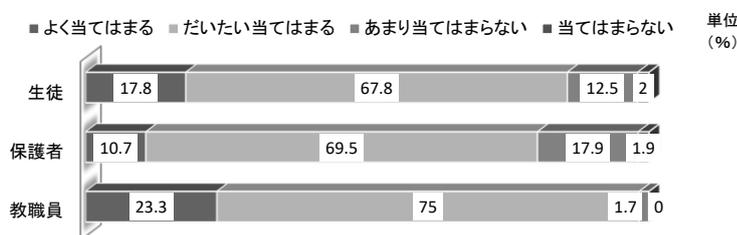
実施時期 令和5年10月20日(金)～10月30日(月)
 回答状況 生徒 回答数 763名 回答率 97.7%
 保護者 回答数 591名 回答率 75.7%
 教職員 回答数 60名 回答率 100%
 回答方法 「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の4段階で評価。

1 学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。(教育課程)



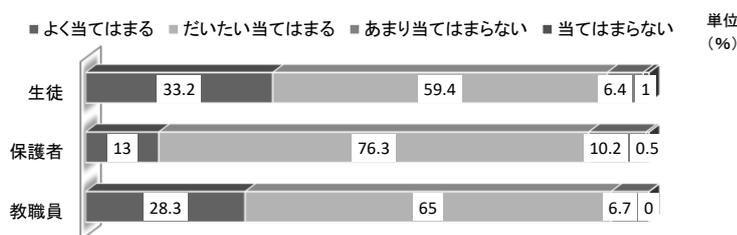
【分析と対策】
 今年度は1、2年生が新指導要領、3年生は旧指導要領による教育課程編成となっており、それぞれで受け止め方が違うのではないかと考えられます。また、端境期のため、教員や保護者も個々で評価が分かれるのではないかと想像されます。その中で、大半が「当てはまる」と評価していただいている点については非常にありがたく感じます。本校スクールポリシーをさらに浸透させるとともに、生徒をより望ましい姿へと成長させ得る教育課程を編成し、教育実践に結実させられるよう、今後も弛まず研鑽したいと思います。

2 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。(学習指導)



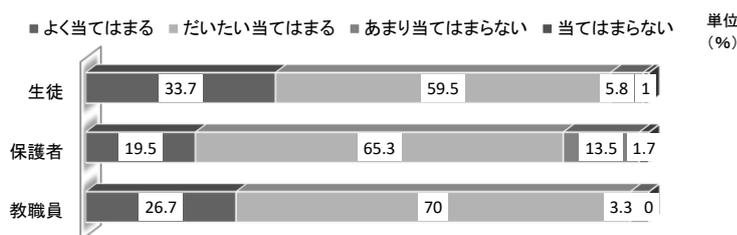
【分析と対策】
 生徒・教職員の評価に対して、保護者の評価は低くなっています。これは指導要領の切り替わりによって、授業内容が探究型の学習を組み込んだものへと変化したことが影響していると考えられます。学校では生徒が意欲的に参加できる授業を目指し、生徒もそれに応えてくれることが生徒・教員の評価に現れた一方で、そうした取り組みが保護者に十分に伝わっていないのではないかと考えられますので、本校の取り組みを保護者にもご理解いただけるよう努力してまいります。

3 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。(生徒指導)



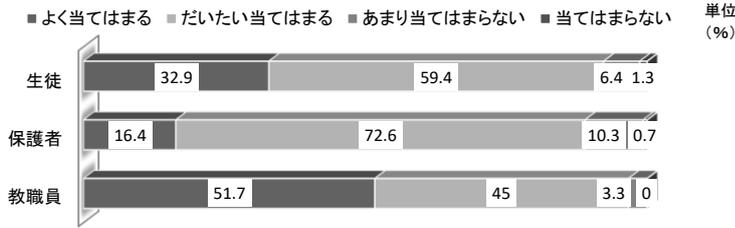
【分析と対策】
 生徒・保護者・教職員の「よく～」「だいたい～」の合計がそれぞれ約10ポイント程度、前年度より増加しています。挨拶については定期的な挨拶立番指導を継続していますが、コロナ禍が明けて自然に声を出せる雰囲気作りができたことも影響していると考えられます。また、生徒会が学校全体を巻き込んで実施したクラスごとの挨拶運動も生徒の意識付けの一助となったと考えています。一方で、自発的な挨拶を苦とする生徒もあり、特に外部からの来客者への挨拶は特に課題であると感じています。一朝一夕で身につくものではないことから、日頃からの指導を継続していく必要性を感じています。

4 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。(進路指導)



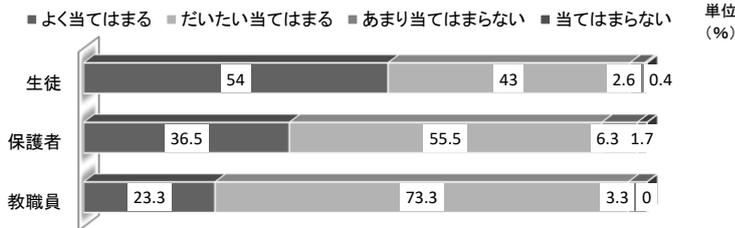
【分析と対策】
 生徒、保護者ともに「よく～」「だいたい～」の値が上昇しました。今年度はコロナの影響も少なくなり、対面での進路関連行事や進路学習をほぼ計画どおり実施することができました。このことが進路選択の意識付けや進路目標の明確化に繋がったものと考えられます。また入試説明会やPTA研修会、年次通信等を通じて、保護者の皆様にも現在の入試制度や模試活用の仕方等についてご理解いただく機会を確保することができました。新課程に対応したR7年度入試では、大学入学共通テストの教科・科目の再編など、大掛かりな変更があります。適切な進路選択に繋がるよう、今後も最新の進路情報の発信に努めて参りたいと思います。

5 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている。(教育相談)



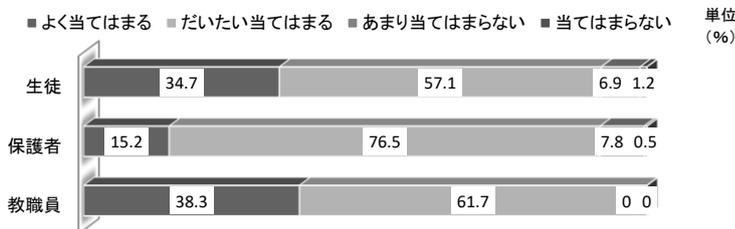
【分析と対策】
 生徒・保護者の「よく〜」「だいたい〜」や、教職員の「よく〜」の値は例年より9〜14ポイント上がりました。先生方に話を聞いてもらえるという実感の表れかと思えます。実際、カウンセリングの利用のきっかけは生徒・保護者の申し出に加え、保健室や担任の先生の働きかけが多い状況です。今後も校内の連携を強めながら、生徒・保護者・教員がより相談しやすい体制をつくるとともに、生徒や保護者に対する教育相談・特別支援教育の周知(カウンセラー便り、通級通信、HPへの情報掲載等)を引き続き行っていきたいと思います。

6 学校として、部活動は活発に行われている。(部活動)



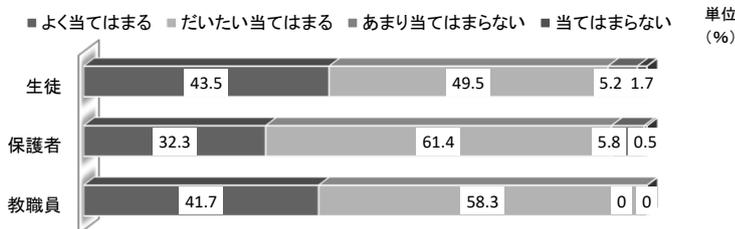
【分析と対策】
 生徒の半数以上が「よく〜」と答え、「だいたい〜」も含めると97%に上る非常に高い評価を得ています。保護者・教職員の評価も90%を超えていることから、本校の部活動は活発に活動していると評価できると思われれます。その活動内容においても文化部では県を代表して美術部・弦楽合奏部が全国総文祭に参加し、吹奏楽部はマーチングバンドフェスティバル東北大会に出場しました。運動部では陸上競技部が東北大会で複数入賞を果たす等、文化部・運動部共に一定の成果を上げています。引き続き部活動を盛り上げ、学校の活性化につなげていきたいと思います。

7 学校として、生徒会活動は活発に行われている。(生徒会活動)



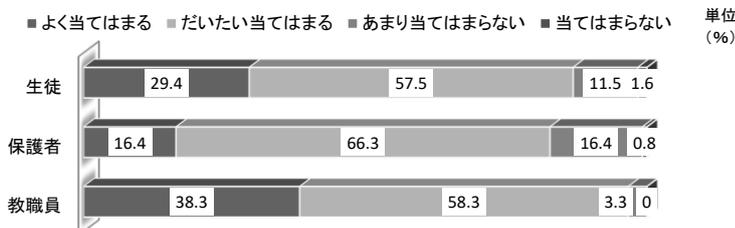
【分析と対策】
 生徒・保護者・教職員のそれぞれから「よく〜」「だいたい〜」の合計が90%を超える高い評価を得ています。これは生徒会の役員はもとより、各種委員会の生徒たちの活躍によって春の体育大会、秋の樹咲祭や球技大会といった多くの学校行事を成功させたこととともに、全校を巻きこんでの挨拶運動や有志による校則の見直しなど学校の活性化につながる地道な活動にも率先して取り組む姿が認められたことも高評価の要因になっていると思われれます。今後も生徒会活動が円滑に行うことができるよう環境作りを行っていきます。

8 自分にとって、有意義な学校行事がある。(学校行事)



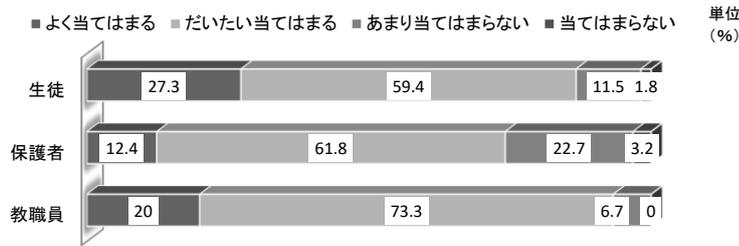
【分析と対策】
 昨年度に比べて、全体的に「当てはまる」評価が大きく増えています。これは今年度の新型コロナの5類移行に伴い、コロナ禍以前並みに行事を実施することが可能になったことが大きな要因だと思われます。コロナ禍前も本校の学校行事は生徒・保護者からは好意的な評価を受けていましたので、次年度以降もこの伝統を受け継ぎ、生徒にとってより有意義な行事となるよう、充実を図っていきます。

9 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。(特色ある学校づくり)



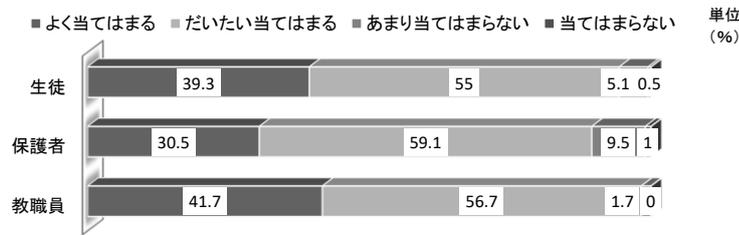
【分析と対策】
 富谷市役所との連携強化と、PTA総会と同日開催した「収穫祭」等の効果もあり、保護者の方の積極的評価(よく+だいたい)が、約72→83%と約10%、昨年と比べて上昇しました。今後も「ニューズレター」などの広報活動も含めて、一人ひとりの参加意識と行動変容、そしてそれらが持続可能な地域社会へ繋がることを探究しつつ、ユネスコ関係の諸行事や諸学習活動に努めてまいります。

10 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。(防災教育)



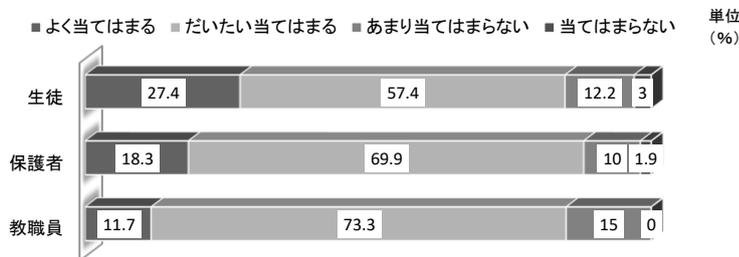
【分析と対策】
「よく〜」「だいたい〜」について、昨年度比生徒は9.5ポイント、保護者は3ポイントの増加であり、周知が進んでいると考えます。また、情勢に鑑み、不審者侵入への対応を教職員・生徒で確認、運用を開始しました。
次年度対策として、生徒安否確認メールの返信率向上のための指導充実、及び訓練前に保護者あてeメッセージ等を活用し、災害・非常時の対応について家庭で都度確認することで、より周知度を上げる取り組みを予定しています。

11 保護者等に対して、学校便り(一斉メールや学年便り、学校ホームページ)などによって、学校の情報は適切に伝えられている。(開かれた学校づくり)



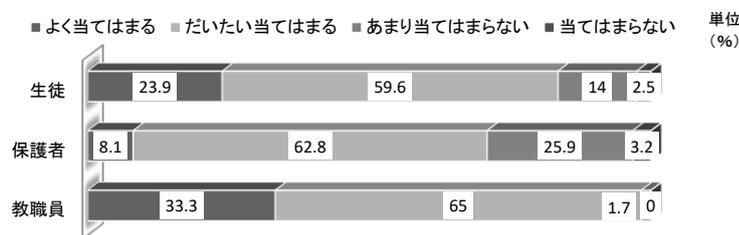
【分析と対策】
今年度は、昨年度と比較して保護者・教職員の評価が約10%高くなりました。コロナまん延以降、生徒・保護者等にメールを通じての連絡を随時行ってきましたが、昨年度以降本格的にclassroom等を使った情報発信を行うようになり、学校HPも充実を図ったことが好意的に受け止められていると考えます。今後もICT環境を整え、より適切に、効果的に情報発信ができるよう、さらなる研修や実践を積んでいきたいと考えます。

12 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。(施設整備)



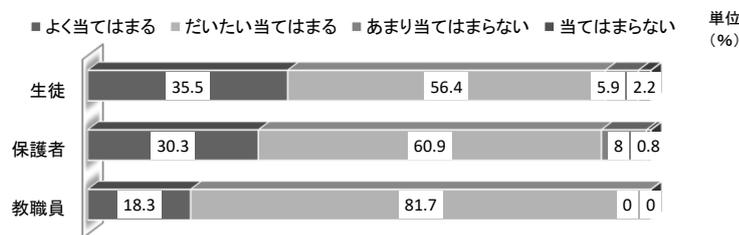
【分析と対策】
「よく〜」「だいたい〜」と回答いただいた割合は、昨年度比で、生徒は8.4ポイント増の84.8%、保護者は8.3ポイント増の88.2%となりました。直近3が年平均(全体)は83%となっています。
今年度は、福島県沖地震災害復旧工事やトイレ洋式化工事(R5~6)等を行いました。来年度はエレベーター設置工事が着工予定であり、今後も突発的な施設修繕を行いながら、生徒の皆さんが安全で安心できる学校生活を送れるよう環境整備に取り組んでまいります。

13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。(いじめ問題)



【分析と対策】
「よく〜」「だいたい〜」について、昨年度比生徒は3.8ポイント、保護者は2.9ポイントの増加となっています。今後も、アンケート調査や本人・当該保護者からの訴え、教職員による発見や教育相談等、家庭や地域、関係機関と連携し、いじめに気付くネットワークを維持していくことで、学校だけでは見逃されがちないじめの早期発見を目指したいと考えます。また、いわゆる「ネットいじめ」につながらないよう、情報モラル教育などを通して未然防止の取り組みをしていきます。

14 自分にとって、学校生活は充実している。(総合満足度)



【分析と対策】
これまで「よく〜」「だいたい〜」の合計が80%を越える高い評価を得ていた項目でしたが、今回は生徒・保護者・教職員それぞれが90%を越える非常に高い評価となりました。元々温厚な生徒たちが、自分たちのペースで穏やかに学校生活を送ることができる校風が評価されてきた結果であると感じていますが、今年度は感染症対策のための行動制限がなくなったことによって、学校生活がより充実していると感じる生徒の割合が増加したことで更なる高評価につながったと考えています。今後も生徒たちが充実した学校生活を送ることができるよう継続した支援を行っていきます。